

埼玉大学電気・電子工学科 同窓会会報

# さい久流

Vol. 5



平成4年度総会懇親会（大学会館きゃら亭にて）

平成5年6月発行

埼玉大学電気・電子工学科同窓会

〒338 浦和市下大久保255

TEL. 048-851-2111（内線2260）

FAX. 048-855-0940

（印刷 雄文社）

## さいくる Vol. 5 発行にあたって

会長 村田 昌市（電気73年度）

皆様いかがお過ごしですか、お元気で御活躍の事とお喜び申し上げます。本年も総会の時期が近づいてまいりましたが、ここに「さいくる Vol. 5」をお送り致します。

同窓会の状況については本会報に目を通して頂ければ御理解いただけると思いますので、私的な話ですが今年のGW（4月29日～5月5日）をどう過ごしたかについて紹介させていただきます。例年であれば2泊3日程度の車での家族旅行を計画し、渋滞時間を避けようと夜遅くや朝早く出発したりしていましたが、結局楽しみを体験する前後には苦痛が伴うものでありました。今年の場合は昨年家を新築したこともあって、外に出る金銭的余裕もなかったのですが、今年はキーワード「安・近・短」で過ごすことにしていました。

実際には初日、2日目は仕事を家に持ち込んでしまいましたが、天気が悪いのが幸い(?)して気分は少しもめいりませんでした。それ以後は5月3日に親戚の結婚式に出席、4日に知人と家族ぐるみでの川辺でのバーベキュー(GW中最高に良い天気であった。)の他は、家族との買い物、食事、団らん、読書等で過ごし、特に時間を持て余すことはなく、またいらいらすることもなく、今までと違った視点で見れば充実した感じのするGWとなりました。

さて世の中全般についてみると、景気はバブル崩壊の影響が残っている中で、とりわけ電気・電子技術者が活躍している電気・自動車業界等は日米貿易摩擦の主役に挙げられ、個人レベルでは豊かさの実感が少ないのに、またまた急激な円高に見舞われ業界は苦しくなるという悪循環を繰り返しているようにも見えます。これも日本人特有の「みんなで渡れば恐くない」方式なのかとあきらめも感じますが、違った視点での解決策がないのかと後悔してしまいます。

我々の同窓会運営も基本的な事は別として、何か違った視点での活動、即ち独自性のある会にしたいと思っていますので、皆様のなお一層の御協力をお願いする所です。

## ■学内トピックス■

工学部の学科改組が昨年より引き続き進行中で本年度は機械工学科と建設工学科が改組され各々定員が110名と100名に増員されました。その後は情報工学科の改組が予定されています。

また、大学院博士後期過程に第4番目の大専攻として、新たに情報科学専攻が文部省に概算要求されています。学内や理化学研究所の情報科学、計算機工学分野の拡充統合がはかれるものと期待されています。

工学部に地域共同研究推進室（室長は応化の松田先生）が設置されました。近い将来この組織は地域共同研究センターに発展改組される予定です。大学と企業との新しい共同研究体制を目指しています。

なお、今年は工学部創立30周年に当り、工学部全体の同窓会名簿の発行も予定されています。

荒木 純道（電気70年度）

## 角豊三名誉教授

### 勲三等に叙される

昨年11月3日（文化の日）角豊三名誉教授が勲三等旭日中綬賞の栄誉に叙されました。埼玉大学電気・電子工学科では一昨年为天野名誉教授に続く受賞で、誠におめでたい事と改めて紙上を借りてお祝い申し上げます。

角先生が、本学電気工学科及び電子工学科の創設に大変御尽力下さりました事は皆様御承知のことと思います。また、大学がまだ騒然としていた時代に学生部長の重職を2期も連続して務められました。そして、数多くの優秀な卒業生を輩出されました。

同窓会としても、ささやかではありますが記念のお祝い品をお贈りして角先生の叙勲をお祝いすることにいたしました。

角先生は8年前に本学を退官なさり、現在は悠々自適の毎日を奥様とお過ごしです。御自宅へお祝いに駆けつけた村田同窓会会長としばし歓談された先生は、元気にご近況を語っておられました。

荒木 純道（電気70年度）

## 会員だより

### ▶▶▶その1

#### 女性会員第一号

第一期生 江森（旧姓平田）佳世子  
（電気66年度）

女性会員第一号として、卒業してからはや26年もたつなんて信じられません。

埼玉大学に入学して最初のゴールデンウィークの間の日だったと思いますが、講義の休講を私と夫だけが知らなくて、広い講義室にとんまな二人。それが縁で毎日昼食を共にするようになり、卒業して一年後に結婚しました。

卒業後、私は緑測器研究所という防衛庁の下請けの会社で測定器の研究開発の仕事をしました。仕事そのものは面白くやりがいもあったのですが、なにしろ軍の仕事なのでどうしても「戦争に加わっているのだ」という思いにさいなまれ3年程で退社しました。そのころNECに勤務していた夫も仕事や、東京暮らしがいやになっていたところ、夫の実家の近くで工業高校の先生の欠員ができたので来て欲しいとの依頼があり、渡りに船と二人で東京をひきはらい夫の実家に同居しました。夫の両親に大喜びで迎えられ夫は教員になり、私はのんびりと田舎の生活をしみながら子供を二人年子で産み育てました。

長女が三才になった時、義父が郵便局を退職したので少し子守をしてもらい、私は近所の子に勉強を教えるようになりました。それが江森学習塾の始まりです。初めは数人だった生徒も年を追うごとに増えて、自分の子供達が中学生になった頃には百人を越えたこともありました。その間一時は短歌にこって実家の母と共に歌集「母子草」も出版し、群馬県の歌人の一人ともなっております。また40才の時、おくれればせながら、車の免許をとって、夫と交代で運転しながらドライブを楽しみ、日本国中を走り回っております。

数年前のこと、私の実家の父が死にかけたとき腸内細菌食品「コッカス」で元気になったのがきっかけでこの食品の販売もするようになり、いつのまにか特約店の地位をいただくに至

り、有限会社メルシーが誕生しました。代表取締役社長は私です。

ハワイ、ヨーロッパ8カ国を旅行してから英会話に興味をもち英会話スクールに通って勉強し英検準一級をとりました。46才の時です。それが縁で群馬県から1993年スプリントスピードスケート選手権大会のボランティア通訳を依頼され、先月2月伊香保に行っていました。橋本聖子さんともお会いすることができ、世界の人々と話すすばらしさを体験しました。通訳の話があってからいよいよ英語に興味をもった私は、塾の中学生達が入学時には英語が好きなのに、だんだん嫌いになっていくのに心を痛めておりました。それは覚えることが多すぎて消化しきれないからなのです。小学校4年生から教えていた生徒がとてよくのびて6年生で英検4級に合格したのをみて、小学校英語の必要性を強く感じていました。しかし大勢の小学生を教えるための良い教材がなかなか見つからなかったのです。それがこの3月、私と同じ考えのチアリー英語研究会に出会い、急きょチアリーの教室を開設することとなりました。宣伝などしたことがなかった私ですが本部の協力により予想以上に生徒も集まって、早期英語教育の新しい仕事に今燃えている私です。

とりとめもなく近況報告を書きました。現在仕事は有限会社メルシー、江森学習塾、チアリー英語明和教室の3つです。趣味はドライブの他にテニス、水泳、華道、英会話の各教室に通っています。夫や家族の理解のもとに、やりたいことをすべてやっている幸せな人と自他共に認める人生です。あとは勝手に育ててくれた長女長男（現在大学生）が早く卒業して自立してくれるのを待つのみです。



橋本聖子さんのとなりに立っているのが私です。

# 会員だより

## ▶▶▶ その2

### JEM運用訓練を終えて

宇宙開発事業団宇宙環境利用システム本部  
宇宙環境利用推進部有人グループ 中沢 孝  
(電子76年度)

一昨年(1992年)の9月から1年余り、JEM運用訓練生としてヒューストンにあるNASAのジョンソン宇宙センター(JSC)のミッション運用部(MOD)に滞在しました。

JEM(Japanese Experiment Module)は米欧日加が協力して打ち上げる国際宇宙ステーションの日本モジュールであり、宇宙開発事業団(NASDA)はその開発及び運用を担当しています。新聞等でご存じのとおり、米国においては、現在宇宙ステーション計画の大幅な見直しが行われていますが、従来の計画では宇宙ステーションは30年間にわたり4-8人の宇宙飛行士が常時滞在する有人システムです。それに対して我が国の宇宙開発は従来無人のロケット・人工衛星が対象で、ほとんど有人の経験がありません。そこで、将来の宇宙ステーション運用に向けて、現在のNASAの有人宇宙往復システムであるスペースシャトルの運用のやり方を学ぶためにNASDAから訓練生3人が派遣されたわけです。

3人はMODの別々の部門に配属になりましたが、筆者は訓練部のスペースラブ課で、宇宙飛行士や地上支援要員の訓練の方法等を学びました。

スペースラブはシャトルの貨物室(ペイロードベイ)に搭載される密閉型の多目的宇宙実験室であり、スペースラブ訓練はコンピュータ、電源、空調等の運用支援システムに関する訓練がJSC、ペイロード訓練(実験装置の訓練)がアラバマ州にあるマーシャル宇宙飛行センターで行われています。「ふわっと'92」の実験装置の操作訓練はMSFCで行われましたが、JSCでも搭乗員に対するシャトルシステムの操作訓練等が行われました。筆者の滞在したスペースラブ課でも、昨年3月からSTS-47の搭乗員

(毛利さんを含む)を対象としたスペースラブのシステム訓練が始まり、筆者もインストラクターグループの一員としてそれに参加しました。

スペースラブの訓練設備はここ数年は年に3-4回の打ち上げがあり、使用頻度が高いため、訓練が深夜になることもあります。インストラクターチームでピザを用意して宇宙飛行士達と訓練の合間にワイワイ言いながら食べたこともありました。JSCは100人程いるNASA宇宙飛行士の本拠地となっていますが、ほとんどの宇宙飛行士は、明るくてユーモアがあり、インストラクター達も彼らと触れ合えるのが仕事をして行く上で最大の楽しみであると言っています。

STS-47の飛行では始めに水漏れ事故等ありましたが、チームワークでそれを解決し、最終的には全ての実験が行えたこと、マスコミに大きく取り上げてもらったこと、特に毛利さんが個人的に力を入れていた宇宙授業の評判が良く、子供達に夢を与えられたこと等、結果的には大成功だったと思います。筆者も、スペースラブ訓練以外に、中学・高校時代にアマチュア無線をやっていた経験を生かして、交信の仕方等、毛利さんが休憩時間等に行ったハムの活動をサポートできたのも良い経験でした。

筆者は帰国後、有人グループというセクションに配属になり、現在、日本の宇宙飛行士の訓練施設・設備の開発などを担当しています。宇宙ステーション開発本部は4月から宇宙環境利用システム本部に名称が変わり、同時に筑波研究学園都市にある筑波宇宙センターの中に移転しました。近くにおいでの際はどうぞお立ち寄り下さい。



## ■研究室案内

今回は羽石先生と小林（信）先生の研究室を紹介します。尚、お二人とも本学電気工学科の卒業生です。

羽石研では、平面アンテナを中心にアンテナ及び電磁界解析で世界をリードする研究を推進しています。特に、円偏波励信や給電系に幾つかユニークなアイデアを考案され、それらは放送衛星受信アンテナ等に実用化商品化されています。また、通信総合研究所や外国の大学教官が研究員として研さんに励んでいます。

近年、羽石先生は今までの研究成果を集大成され平面アンテナに関する専門書を数多く書かれています。なかでも“Analysis, Design and Measurement of Small and Low Profile Antennas”（Artech House社）は世界のアンテナ研究者に広く読まれています。

小林（信）研では、真空絶縁に関する研究を一貫してやってきています。そして、その長年の地道な研究成果は真空放電と絶縁に関する国際会議(ISDEIV)に近年数多く発表されています。長期的な研究計画は、大学における研究の独自性を十分発揮したものであるでしょう。

小林（信）先生は高エネルギー放射光実験施設の助教授をも併任され、ここでも加速器の真空絶縁に関する研究を行っています。そして、送配電系の真空遮断機の耐圧向上から金属材料の表面特性の研究へと新たな飛躍を遂げようとしています。 荒木 純道(電気70年度)

## ■先生方の近況

昨年4月、森末先生が工学部長に就任されました。工学部の改組拡充、地域共同研究センターの新設、大学院専攻の増設など重要課題を次々と解決し活躍されています。

また、一昨年秋、中川先生が通産大臣表彰を受けられました。今回の表彰は、中川先生が光計測関係のJIS規格をはじめとした工業標準に多大の功労をなされてきたことに対するものです。

森先生が昨年4月より防衛大学機械工学科へ異動なさいました。今後はロボット制御を中心に研究を展開されるとの事です。

前山先生が今年4月より東京工大から講師として赴任されました。先生の専門分野はプラズマ工学ですが、電気機器を含め広範に研究を進めて行きたいとの抱負を語っておられます。33才とお若い前山先生の今後に大いに期待したいものです。

私事ですが、荒木は今年6月から文部省在外研究員として米国イリノイ州立大学へ10ヵ月の予定で出張します。 荒木 純道(電気70年度)

## 平成4年度総会報告

平成4年度電気電子同窓会の定期総会が、平成4年7月18日土曜日、多数の参加のもと、埼玉大学学生会館にて開催されました。

今回は昨年(第25回)記念大会の翌年ということもあり、参加者数はやや減少したものの活発な議論がなされました。

以下に概要を紹介させていただきます。

村田会長より同窓会活動の概況と今後の抱負について挨拶がありました。

続いて、来賓としての諸先生方よりお言葉をいただき、お祝いのお言葉と名簿の随時更新等の同窓会充実への御助言をいただきました。

議事として、

- ① 平成3年度事業報告並びに決算・監査報告
- ② 役員改選（村田会長以下現役員の再選）
- ③ 組織について

- 総務委員会……総会、幹事会等の主催
- 広報委員会……会報の作成・発送
- 親睦委員会……親睦会・交歓会の主催

の各委員会を同窓会活動充実のため新規設置

- ④ 総会・親睦会の主催、同窓会報の発刊等を主事業とした平成4年度事業計画並びに予算案
- 以上が提案され全員一致で承認されました。

総会の後は学生会館内のきょう亭にて懇親会が開催され恩師、旧友との懇談の輪があちこちで見られました。 堀 長一郎(電気修79年度)

